

令和7年度 第1回秋田県立博物館協議会議事録

1 日 時 令和7年8月1日（金）
午前10時～午後12時まで

2 場 所 秋田県立博物館 大会議室

3 出席者 18名

- (1) 委 員
- | | |
|-------|------------|
| 加藤 光誠 | 委員 |
| 木村 美穂 | 委員 |
| 佐々木 真 | 委員 |
| 三戸 忠洋 | 委員 |
| 柴田 睦子 | 委員 |
| 高階 史章 | 委員（協議会委員長） |
| 高島 由美 | 委員 |
| 本田 由香 | 委員 |
| 三浦美貴子 | 委員 |
| 三河 直樹 | 委員 |
- (2) 生涯学習課 糸田 和樹 生涯学習・学芸振興チーム学芸主事
- (3) 博物館
- | | |
|-------|--------------|
| 阿部 雅彦 | 館長 |
| 永井 毅 | 副館長 |
| 新堀 道生 | 展示・資料チームリーダー |
| 黒川 陽介 | 普及・広報チームリーダー |
| 丸谷 仁美 | 学習振興チームリーダー |
| 佐々木朋子 | 総務チームリーダー |
| 藤原 祐佳 | 総務チーム主任 |

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 委員長あいさつ
- (4) 案件

ア 報告 「令和7年度博物館事業計画について」

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ① 調査研究、資料収集管理、展示活動について | 展示・資料チームから説明 |
| ② 教育普及、広報・出版活動について | 普及広報チームから説明 |
| ③ 学習振興活動、セカンドスクールの利用について | 学習振興チームから説明 |

報告についての質疑・応答

(委 員) ユーチューブがあまり更新されていないように拝見したが、今後の展望や方向性に

ついて教えていただきたい。

(事務局) ユーチューブを様々な形で活用していければと思っているが、きっかけが掴めていないところもある。

(委員) 博物館教室が29講座82コマと説明いただいたが、参加者はどのくらいか。

(事務局) 今年度の集計はまだだが、昨年度は824名が参加している。

(委員) どういう講座が人気あるか。

(事務局) 化石と地層の観察会や、昆虫教室など親子で体験できるもの、野外で活動作業を伴うものが全体的に人気が高い傾向にある。座学の講義形式の教室は定員に達しないものもある。

(委員) 教室を企画する時、色々な狙いがあると思うが、博物館としてどういうところを狙っているのか、目指すコンセプトはあるか。

(事務局) 小さい子供から年配の方まで幅広く来ていただければというところを意識している。しかし、現状は年配の方と小さい子供と保護者の世代に偏りがあり、その間の世代の利用が増えてくれればと思う。

(館長) 博物館は社会教育施設、生涯学習施設としての要素が非常に高い。先ほど来館者数の話をしたが、博物館として人を集めるために何かコンテンツを作るということは、私としては二の次と思っている。県民の多様な興味、歴史や考古、工芸等に応え、博物館に行くと様々なことを学べる、気付ける、という講座が提供できていると思っている。

(委員) 特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」を見て面白かったが、博物館でこの特別展を開催する意義について教えてもらいたい。

(事務局) 純粋なアートとは異なり、当館でこれまでやってきたものとは確かに少々違いはあるが、立体作品もあり、内容を見ると社会事象を取り上げたり、想像力を膨らませて楽しむ内容になっている。博物館としても想像力を豊かにしてもらおう機会として良いと考えた。また、開館50周年を機に新しいことにチャレンジする意味合いもあった。

(議長) 先ほどSNSの話があったが、インスタグラムの投稿内容が真面目すぎる傾向があるのではないかと。もっと気軽に毎日でも何でもいいから投稿することで思わぬヒットに繋がり、来館者増加に繋がる可能性があるのではないかと。思う。

イ 協議 「開館50周年後の博物館のあり方について」

(館長) 今回の協議題の背景、現況について、資料に中期ビジョンについて載せてあるので説明させていただく。当館は、昭和50年に総合博物館として開館した。当初は自然・歴史・考古・民俗・工芸の5部門、分館として旧奈良家、平成8年に増築して秋田の先覚記念室、菅江真澄資料センターをオープンしている。その後、大規模改修を行い、平成16年にリニューアルオープンして現在に至っている。建物の多くは築50年で非常に年季が入っている。今年3月に県の社会教育施設全般について、あり方の検討委員会がまとめた文書を

提出しており、当博物館が総合博物館として非常に大切な存在であると報告されている。

次に中期ビジョンについては、今年4月に新しくなった。基本的な考えとしては、新しい部署や物事を立ち上げるのではなく、これまでの活動を基本として活かしていく。以前の博物館法にはなかった「つなぐ」とか「向き合う」といった視点を意識して見直す方針だった。資料には令和7年度からの5カ年計画の中期ビジョンが載っているが、「現代社会、地域、今を生きる人々につなげる」をコンセプトとし、新博物館法で求められる5つの要素を盛り込んでいる。半年経ったが、現時点ではこれまでのことをしっかりやっていくという点では職員一同上手くできているのではないかとと思っている。ただし、上手くいっていない点が一点あり、「秋田の博物館の基幹として」の所で、あきた Museum デジタルアーカイブ協議会の基幹施設として「あきた Museum DX 推進事業」に取り組むとあるが、国に補助をお願いしていた事業が採択されなかった。これは県内の小規模博物館のデジタル化を支援する目的で設立されたものだが予算がつかなかったため、来年度に向けて再検討中である。中核施設としての役割や小規模博物館との連携の考えは変わっておらず、生涯学習課と相談しながら進めていく。

現在、博物館を取り巻く社会情勢は変わってきているが、地域社会が抱える課題に向き合っていくこと、秋田に生きる人々一人一人が豊かに生きることを何らかの形で支援する博物館であるために、御意見、御提言をいただきたい。

(委員) 5年間の中期ビジョンは非常に明快で方向性には共感している。改正博物館法の中にある文化観光の推進、地域課題への対応の視点を加味することで、より実効性が高まる。生涯学習に資する社会教育施設という役割に加えて、文化観光の拠点としての役割が期待されている。地域の観光関係者と連携しながら秋田の風土、歴史、文化を観光資源として紹介して来観者の学びを深め、積極的な情報発信を期待したい。

地域課題について先ほど話があったが、秋田は自然が豊かで文化も誇れる所だが、深刻な課題に直面している。地域活力とか地域産業とか、コミュニティの衰退、それに歯止めをかけるため、博物館として何か取り組むことはないか。昨年の企画展で、「美の交差点 博覧会とあきたの工芸」があった。明治6年ウィーン万博で、能代春慶が出品され賞を得たことが紹介されていた。当時の世界に秋田の工芸の魅力が発信されている。継承している、埋もれている文化資源の価値を調査し、発信して地域課題の何かのヒントとなるよう努力していただきたい。博物館の持つ機能は多種多様で、地域の課題を共有して共に考える場として、博物館にはそういったファシリテートの機能に期待する。

(委員) 県南地方から参りました。県南では近代美術館で古代エジプト展が開催され、市内の小中学校が校外学習として多く参観し、非常に評価されている。世界の歴史に身近に触れるというのは非常にいいことで、歴史から日々の生活の何か、一人一人のひらめきに活かせるし、探究心を求めて博物館に足を運ぶとか、もっと歴史を知りたいとか、将来の進路にもつながることがあるのではないかと思います。

学校のPTA活動も少子化でPTAだけで運営するのも大変な状況で、地域と連携して

いこうと話を進めている。秋田県のこれからのことに関しても、一緒に考えながら同じように共存していけたらと考える。

(委 員) 今日こちらにお伺いして、博物館内に展示してある絵どうろうを見て、故郷の湯沢の祭を思い出した。いろいろな地域の文化が展示されていることによって誇りやつながりを感じられる場だと改めて博物館の価値を再認識した。秋田にこんな文化があったのかと改めて感じられる貴重な施設だなと思ったのと、行って感じられるというのもあると思うが、博物館からもっと働きかけをしてもらう機会があってもいいと思う。例えば、出前授業とか子供たちに色々触れてもらうとか、そういうものがもっとあれば博物館のプレゼンスが向上するのではないかなと思う。あと、秋田の人口減少といった社会情勢を見ながら、どういうあり方がいいのか考えていく視点も非常に大切で、その中でいろいろと伝えていく、失われつつある文化を継承していく、繋いでいく機能が今後ますます重要になると思う。

(委 員) 小さい頃から遠足や普段からいろいろと活用させていただき、企画展も含めて工夫していると感じる。中期ビジョンの中で、以前から収蔵庫がだいぶ手狭になっている状況を聞いている。増築するのは大変ですが、維持・改善について具体的に考えていることはあるか。また、収蔵率はどのくらいか。

(事務局) 収蔵率を数字で示すことは難しいが、床や棚から資料が溢れてしまっている。工夫としては、資料を詰め合わせたり、配置替えをして、それぞれの部門で凌いでいるが、将来的に建物の増改築が必要となる状況である。

(委 員) なかなか難しい課題だと思うが、収蔵環境の維持・改善等、具体的に考えていると思うので、ぜひ進めていただければと思う。

(委 員) 博物館のボランティア組織、アイリスの会に10年以上務めている。ボランティア活動をする前は、博物館のファンということで来ていたが、新聞に博物館のボランティア募集が出ていた時に入った。来館者の視点と、内部からの視点では見方が変わる。例えば、わくわく体験室の方にいるお客様たちが、楽しんでいらっしやるかなとか、いい経験して帰ってくればいいなとか、夏休みの帰省の時に祖父母と一緒にいらっしやるお子さんたちが満足していただけたらいいな、というような思いで接している。博物館も築50年が経ち、建物がどうしても老朽化する。例えば、外壁のレンガが剥げてきている。秋田県の文化の顔として、手を入れたい気持ちがある。今後も微力ながらボランティアとしてお手伝いしていきたい。

(委 員) 新博物館法で求められている新たな役割は大変だと感じる。少ないスタッフで貴重な資料の収集や保存、魅力的な企画に取り組んでいるのは本当に素晴らしいことです。館長の話にあった社会教育の多様性や、ニッチな部分への対応という点がなるほどと思った。幅広い年齢層に来てもらうことが最初の目的かと思っていたが、社会教育の役割を第一に果

たすことが重要だと実感した。一方で幅広い層に来てもらうための広報は、今後も取り組む課題だと思う。私どもの企業でも、認知度を高めるための SNS 活用や、仕掛けどころに悩んでいる。広告代理店の方にも相談してもらっているが、トライ＆エラーしかないと言っている。とにかく試してみて、効果のあるなしを見極めるしかないかなと思っている。

博物館のインスタも拝見しましたが、残念ながら閲覧数が伸びていないのが残念。ハッシュタグの付け方などもあるかもしれません。真っ当な形だけでなく、普段見られない裏側の様子を映すことで閲覧数が伸びたという話も聞く。工夫次第で多くの方の興味を引くことができると思う。

先ほど絵どうろうの話があったが、期間が少し長いのではないかな。県内の様々な祭や行事を定期的に入れ替えて展示すれば、もっと多くの人が訪れるきっかけになると思う。

(事務局) 絵どうろうの展示期間は少し長めにしている。特別展の会期中に展示物を動かすのが難しいためである。また、「年報」の祭り広場の項目にあるが、毎年様々なお祭りや行事を紹介している。同じ雛人形でも毎年違うものを展示している。小さい展示ですが知っていただくきっかけになればと思う。

(館 長) 企画展やコーナー展示の広報について、開始前にインスタにあげて告知していますが、それが拡散されるかどうかトライ＆エラーの部分だと思う。いま菅江真澄のコーナー展をやっていてなかなか面白い。男鹿の目潟の資料も面白いので、是非見ていただきたい。

(委 員) フェイスブックやインスタについて、ただ「この企画をやります、やりました」という告知だけでは受け手に響かない。動画を活用して職員の日々の様子など、何でも良いので切り口を変えて挑戦して欲しい。ボランティアの存在はとても貴重だと感じる。ボランティアの存在や、素晴らしい職員の方々がいることをもっと広報して活かして欲しい。

(館 長) モノも良いが人も良いという点が伝わるのは嬉しい。職員は真面目な者が多いので、どこまで真面目に受け取られて、どこからが面白くなるのか判断が難しいところがある。

(委 員) 小学校で勤めている。SNSの話があったが、学校のホームページの更新を校長の私がやっている。毎日更新することを心がけている。PTAなどでは見られない掃除や歯磨き、休み時間など、特別ではない普通の日常を載せるようにしている。子供たちがいる間は、良くても悪くても、当たり前なことでも楽しいことでも何でも毎日載せている。「1回見て更新されなくても2回目は見る。2回目見て更新されなくとも3回目は見る。3回目見ても更新されてないと、その人はもう見ない」という話を聞いたことがある。昨年4月から毎日更新を始めて閲覧者数は右肩上がり、月間1,000件から1,400件に増えた。全児童数は90名程度です。博物館の10万件はすごいですが、毎日更新が重要だと思う。

次に学校の博物館利用についてですが、低学年から高学年まで課外学習や調べ学習で博物館を利用させていただいている。何よりも屋内施設で天候に左右されず、計画が立てやすい点がいい。小泉潟で昼食をとる予定の時に、雨が降った際、会議室を貸していただけると、プログラムについても親身に相談に乗っていただいている。子供たちも楽しく見学している。ネックは交通の便が悪く路線バスがないこと。自然科学館や、まんだらめに

は自前のバスがあり迎えに来てくれますが、博物館にも送迎バスがあれば、もっと多くの学校が利用できると思います。先日、秋田市の教員研修で黒沢家の見学（武士の家）に行きました。奈良家（農家）や金子家（商人）も見たことがありましたが、比べると家の造りが全く違うので非常に面白かった。博物館でも「比べると楽しい」という要素を入れられたらいい。また、他の施設との連携で、例えば菅江真澄のお墓がある寺とコラボなども考えられる。子育てをした母親の目線で考えると、小泉湧公園や水心苑にはよく遊びに来るが、その足で博物館に来るかという少しハードルが高い。子供が見たり、遊んだり、触ったりするものがあれば、セットにして来るのではないか。岩手には「岩手こどもの森」、山形には「ひがしねあそびあランド」という楽しい所がありますが、秋田は点在している感じで、冬の天気の悪い時に行く所がイオンに行しかないみたいになってしまっている。小泉湧公園や博物館がセットようになってくれればすごくいいなという思いがある。子供が減っていく秋田県だからこそ、大切にされる施設であって欲しい。

（委 員） 「開館50周年後のあり方」というテーマで数値的な目標を設定しがちですが、人数だけが目標ではないというのはその通りです。一方で、いろいろな取り組みをした結果として人数が伸びていくのは良い姿だと思う。委員2期目として参加させていただいているが、このような良い施設があるのに、知っている人が少ないのは非常にもったいない。職員の皆さんが一生懸命取り組んで形になっているのに、なかなか知られていないところが歯がゆい気持ち。SNSは知ってもらうきっかけの一つだが、博物館との接点だったり、知ってもらうきっかけをどう作るのが課題の一つではないか。先ほどの話にあった出前授業や、ハードルが高いという話もあったので、例えば駅前であったり、アルヴェを使ったり、今年はアルスの地下で「まちのえき」という芸術、アートの取り組みとDXのお子様向けの体験企画を夏休みに合わせてやっているが、館外スペースを活用した出張展示も知ってもらうきっかけづくりになるかもしれない。

県内には25の博物館があるが、県立博物館は「基幹の博物館」としての役割が大きい。夏休みなどに博物館巡りスタンプラリーのような企画をすることによって、知ってもらうきっかけになり来館者が増えることにも繋がると思う。SNSなど様々な手段で知ってもらい、足元を固めつつ足を運ぶ人が増えることを期待している。

（議 長） 開館50周年後のあり方という点では、この先10年後、20年後の話をするのか、次の50年後の話をするのか、どこを見据えて準備をしていくのかの話を進めて考え始める必要が大事かと思う。収蔵庫なども含め、5年先、10年先のことも大事だが、その先の将来的な計画を少しずつでも進めていくことができればいいと思う。

ウ その他 令和7年度あきたミュージアム機能強化事業「特別展」の評価依頼について
ミュージアム機能強化事業に係る外部委員評価制度について説明し、令和7年度特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」の評価を依頼した。